

## 金賞

節水名人を目指して

水田 瑠依

大刀洗町立菊池小学校

毎日使っている水、それはとても大切なもの、その水を守ってくれているのは、浄化センターの人たちなのです。

私は、社会の「水はどこから」という学習で、「福童浄化センター」というところに行きました。そこで分かったことが二つあります。

一つ目は、水のゆくえです。よごれた水は、下水道を通過して浄化センターに着きます。まず、「ちん砂池」というところで、大きなゴミや土砂をとりのぞきます。次に、「最初ちんでん池」で、小さなゴミをすめます。そして少しずつきれいになった水は、「反応タンク」というところに着きます。反応タンクには、「び生物」という小さな小さな生き物がいます。び生物は水のごれを食べてくれるのです。

しかし、び生物には苦手なものがあります。それは、油です。私の家でも油はよく使います。そんな油を水といっしょに流してしまうと、び生物は死んでしまうのだそうです。だから、油を流さないように気を付けたいと思いました。び生物のはたらきにより、さらにきれいになった水は、「最終ちんでん池」で、処理した水とどろに分けられます。最後にとう明になった水を消どくします。そして、川や海に流しても大丈夫か、水しっけんさをしてから、川に放流します。私は、使った水がたくさんの設びできれいになっていくのを知り、「よごれた水を川に放流できるまできれいにするには、とても手間や時間

がかかるのだな。」と思いました。

二つ目に分かったことは、節水の大切さです。私たち菊池小の四年生は、みんな「節水チャレンジ」という取り組みをしました。

私は、自分ができる節水について考えました。そして、コップに水をくんで歯みがきをすること、せん面器に水をためて顔をあらうこと、この二つの取り組みにチャレンジすることにしました。一週間、節水チャレンジをした結果、百一リットルの節水をすることができました。自分でも「がんばって節水することができたな。」と思いました。そして、もう一つ考えたことがあります。それは「節水をやめずに、続ける」ということです。節水チャレンジの期間だから続けるのではなく、この節水をふだんからしていくことが、一番良いことだと思います。

私は、浄化センターで学んだことや、節水チャレンジをして分かったことがたくさんありました。節水なんて意味のないことだと思っていました。この学習を通して考えが変わりました。そして、大切な水を守ってくれている浄化センターの方々やび生物にも心から感謝して、これから水を大切に使用していきたいと思いました。これからは節水を続け、「節水名人」になりたいです。